

身近な自然観察「夏のちいさな生きもの」  
観察参考メモ

夏は虫たちにとって楽しい季節。都市部で生きもののための多様な環境づくりをしている公園に行き、小さな生きものたちを観察する方法・ポイントをご紹介します。

**【自然観察の注意点】**

- 夏に自然観察をするときは、草にかぶれたり、ヤブ蚊にさされないよう長袖のはおれる服を着ましょう。ツルツルした素材がいいですよ。帽子もかぶりましょう。
- ピーティング中にハチ・ドクガ・イラガ、などがいたら、毒があるので触らないようにしましょう。

**【自然観察のルール】**

- 生きものにはそれぞれ食性があり飼育が難しいことがあります。観察が終わったら元いた場所に放してあげましょう。

**【観察のポイント】**

- 環境の多様性が生きもの多様性につながっていることを知るために、違う環境へとエリアを移動して観察しましょう。
- 明るい、暗いといったちょっとした違いであっても、環境の違いによって棲む生きものは違ってきます。
- いくつかの違う環境を作ると、それぞれの環境にあった違う生きものが生息します。環境が多様になれば、生きものも多様になるのです。
- 林縁にツル植物などが絡まり、茂っている環境を生態学的に「マント・そで群落」と言います。自然の野山では、こういった環境が一定に保たれていますが、普通、都市公園ではきれいに整備されてしまいます。このような環境を残すことで、いろいろな多様な生き物を観察することができます。
- 枯れた木にもいろいろな生きものが生息しています。
- エサや、落とし穴をしかけて昆虫を集めて観察することも試してみましょう。

この自然庭園は、100年以上の歴史があります。長い年月にわたって緑がある環境では、たくさんの生きものが観察できます。短い期間ではこのようにはいきません。

みなさんの身近にある自然環境を大切にすることによって、たくさんの生きものが生息し、生物多様性が生まれ、維持されるのです。

#### 【夏のちいさな生きものの観察に便利な図鑑】

- ・『ポケット図鑑 日本の昆虫 1400 ①チョウ・バッタ・セミ』 文一総合出版
- ・『ポケット図鑑 日本の昆虫 1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ』 文一総合出版

昆虫に初めて興味を持った子どもから、ある程度の知識のある大人まで、幅広い層を満足させる図鑑。白バックの生体の写真が迫力があり、色もよくわかる。

- ・『イモムシ ハンドブック』 文一総合出版
- ・『イモムシ ハンドブック②』 文一総合出版
- ・『イモムシ ハンドブック③』 文一総合出版

2010年に最初の「イモハン」が出版され、2012年に②、2014年に③、と次々続編が登場。2019年には「イモムシの教科書」も出版され、イモムシの全てが解説されているそう。その他、文一総合出版のハンドブックシリーズのハムシ、テントウムシなどは、ちいさな生きものの観察に便利。

主催：一般財団法人森永エンゼル財団

制作：NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

監修：世田谷区生物多様性アドバイザー 山崎裕志

2021.9.1